

## 2 各教科の問題ごとの正答率一覧と考察

国語	1-(1)	1-(2)	1-(3)	1-(4)	1-(5)	2-(2)	3-(1)	3-(1)	3-(2)	3-(2)	4-(1)	4-(2)	4-(3)	5	6-(1)	6-(2)
東京都	62.3	38.9	73.6	48.7	94.7	53.3	81.2	64.5	68.8	64.5	55.9	66.7	62.7	65.2	77.6	68.0
本校	62.2	44.9	75.5	45.9	98.0	45.9	83.7	77.6	68.4	66.3	59.2	64.3	63.3	62.0	84.7	73.5

	6-(3)	6-(4)	7-(1)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	8-(1)	8-(2)	8-(2)	8-(3)	8-(4)
東京都	48.8	66.0	45.2	16.0	34.2	38.0	33.8	50.5	30.3	19.8	31.9
本校	55.1	62.0	50.0	17.3	43.9	23.5	35.7	49.0	36.0	13.0	30.6

### 【結果と課題】

\*27個の設問のうち、17個(62.9%)が都平均を上回った。都平均を下回った10問のうち、平均より5%以上下回っていた設問は以下の通りである。

- ① 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと「㊦(2)」
- ② 読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、文章の中心となる内容について考えをまとめること「㊦(3)」
- ③ 段落の役割を考えて文章を構成すること「㊦(3)」

特に、㊦(3)「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」を伸ばしていくことが今後の課題である。

### 【今後の具体的方針】

- ① について 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりさせるために、今後も漢字テストを継続させる。また、課題テスト等の取り組み方も工夫していく。
- ② について 「課題を解決するために読むこと」の指導を充実させる。文章を読んで必要な情報を集め、それを活用しながら自分の考えをまとめられるような課題を設定する。また、友達との意見交換を充実させ、理由や根拠を明らかにして意見を述べる機会を多く設定する。昨年度に引き続き、読書活動も充実させていく。
- ③ について 段落のまとまりを考えながら文章を読ませたり、書かせたりする。叙述の仕方のポイントを押さえて文章を書かせたり、友達の文章を読み合ったりする活動を積極的に取り入れる。思考の軌跡がわかるようなワークシート作りをする。

社会	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	3-(4)	4-(1)	4-(2)	4-(3)	4-(4)	4-(4)	4-(5)	5-(1)
東京都	85.4	3.5	85.3	50.7	49.3	44.3	38.9	62.1	28.9	39.3	33.1	671	50.9	80.7	64.9	66.9	45.6
本校	67.3	6.1	91.8	44.9	50.0	42.9	44.9	56.1	19.4	48.0	38.8	61.2	57.1	81.6	68.4	63.3	31.6

	5-(2)	5-(3)	5-(4)	6-(1)	6-(2)	6-(3)	6-(4)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	8-(1)	8-(2)	8-(3)
東京都	49.6	31.2	57.4	36.9	50.1	60.7	78.2	56.7	58.0	48.0	51.8	46.5	34.4
本校	52.0	46.9	68.4	43.9	52.0	59.2	84.7	57.1	54.1	56.1	59.2	52.0	35.7

#### 【結果と課題】

都の平均点よりも正答率が高い設問の数が増えた。昨年度の課題であった「複数の資料を関連づけて読み取ることが苦手である」点は改善傾向にある。しかし、その中でも以下の点に課題がみられた。

- ①小学校での既習事項（日本国憲法の三大原則，日本の地域名）の理解に課題がある。
- ②世界の国々の位置や名称、様々な地域の生活様式の理解に課題がある。

#### 【今後の具体的方針】

- ①について：関連のある単元を学習する際に、小学校で学習した内容を振り返る場面を設定する。
- ②について：地図帳を積極的に使用しながら、写真や映像資料などを用いることで、理解力を高めていく。（地理的分野，歴史的分野）

上記内容とは別に、授業中にグループ活動を行う場면을充実させていることで、班員同士で問題解決に取り組む姿勢が身に付いてきた。こうした結果が、生徒一人一人の学習内容に対する理解を深めていると考えられる。

数学	1-(1)	1-(2)	2-(1)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	3-(4)	3-(5)	4-(1)	4-(2)	4-(3)	5-(1)	5-(2)
東京都	61.9	85.0	83.3	60.8	60.1	72.8	87.7	71.4	55.5	78.2	55.2	76.5	56.7	38.0	45.2	15.3
本校	50.0	82.7	77.6	70.4	51.0	69.4	80.6	65.3	51.0	71.4	49.0	73.5	56.1	36.7	39.8	14.3

45.9

	6-(1)	6-(2)	6-(3)	7-(1)	7-(2)	7-(3)	8-(1)	8-(2)	8-(3)	8-(4)	9-(1)	9-(2)	9-(3)
東京都	48.5	26.7	89.8	27.4	34.7	8.9	63.4	32.9	36.0	82.5	72.4	47.5	55.8
本校	45.9	30.6	90	26.5	52.0	11.2	65.3	31.6	36.7	90.8	71.4	42.9	60.2

### 【結果と課題】

各問を「①数学への関心・意欲・態度」「②数学的な見方や考え方」「③数学的な技能」「④数量や図形などについての知識・理解」「⑤必要な情報を正確に取り出す力」「⑥比較・関連付けて読み取る力」「⑦意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の7観点に分類して、各観点ごとに都結果と本校結果を比べたところ、①②③⑤⑦の観点の正答率平均は本校の方が高かった。逆に④⑥の観点は全ての問題で本校結果の方が正答率が低く、特に④の観点の正答率平均は都正答率平均の89.5%にとどまった。

### 【今後の具体的方針】

昨年度に比べ向上が見られる(昨年度の本校正答率平均は都平均の91.8%、今年度は97.8%)ので、方針としては今年度の取り組みを踏襲する。具体的には、基礎的・基本的問題を疎かにせず丁寧に組み立てることで定着を図る、計算の途中過程や命題の根拠を丁寧に書かせる、4人組による生徒同士の学び合い活動をするなどである。

さらに、苦手分野④、⑥の観点の克服として、数学用語や計算の仕方を何度も繰り返らせるスパイラル学習をさせたり、比較・関連付けて考えることを常に念頭に置かせたりする。また、文章を読み取る力が(それを数式に表す力も)弱いため、基礎・基本の定着を図りつつ、文章問題も積極的に取り入れる。

理科	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	3-(1)	3-(2)	3-(3)	4-(1)	4-(2)	4-(3)	5-(1)	5-(2)	5-(3)	6-(1)
東京都	50.6	67.5	85.8	62.0	29.1	78.2	29.1	23.7	39.0	45.6	58.0	54.7	80.1	41.1	88.8	47.8
本校	53.1	74.5	91.8	69.4	34.7	76.5	52.0	33.7	43.9	46.9	52.0	51.0	76.5	51.0	87.8	61.2

	6-(2)	7-(1)	7-(2)	8-(1)	8-(2)	8-(3)	8-(4)	9-(1)	9-(2)	9-(3)
東京都	45.1	66.0	39.9	39.7	17.7	43.4	23.5	51.6	22.5	50.8
本校	64.3	53.1	35.7	36.7	26.5	46.9	28.6	55.1	25.5	58.2

#### 【結果と課題】

- 26個の設問のうち、18個（69.2%）が都平均を上回った。
- 基礎的な実験や観察の操作手順については、確実に身につけている。
- 知識理解に関する問題については、全体的に正答率が高かった。
- 問7-(1)は、都平均を10%以上下回る正答率だった。
- 「空気とガラスの境界面で光が屈折するときの光の進み方」を調べる実験を行い現象は確認しているが、結果を視覚情報として認識すること、屈折する理由を理解することが不足していたと考えられる。このことから、結果だけではなく「なぜ、そのような結果になるのか」を理解させ、理論的に考える力を身に付けさせる必要がある。また、視覚情報として知識の定着を図るために、視覚化させる教材の工夫や、動画教材の活用も有効であると考ええる。

#### 【今後の具体的方針】

- 実験や観察においては、可能な限り実体験を積ませる。また、結果の確認については、生徒自らが行ったものだけではなく、実験誤差や操作の誤りを考慮して、教科書や資料集、動画教材を併用(活用)して全員が共通の結果を確認できるようにする。

英語	1-(1)	1-(2)	1-(3)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	2-(4)	3	4-(1)	4-(2)	5-7	5-1	6-(1)	6-(2)	7-(1)
東京都	52.7	83.5	47.6	92.8	93.9	80.1	86.8	66.9	42.9	55.7	44.3	61.0	36.7	29.4	54.4
本校	61.2	87.8	48.0	92.9	93.9	73.5	87.8	64.3	66.3	51.0	48.0	55.1	51.0	51.0	56.1

	7-(2)	8-(1)	8-(2)	8-(3)	8-(4)	8-(5)	9	10-(1)	10-(2)	10-(3)	11-(1)	11-(2)	11-(3)
東京都	57.6	81.6	65.4	69.1	80.2	43.2	76.8	83.2	37.3	20.4	47.5	29.6	31.8
本校	77.6	65.3	68.4	77.6	77.6	51.0	89.8	82.7	42.9	31.6	56.1	38.8	32.7

#### 【結果と課題】

昨年度はすべての項目で都平均に達することができなかったが、今年度は28個の設問のうち、21個（75%）が都平均を上回った。特に、英語の質問に英語で答える問題（表現の能力）、読み取り問題（理解の能力）で平均値を大幅に上回ることができた。

一方で基本的な文法構造の問題（8-1）How many+名詞の語順、の正答率が平均値を16.3%下回った。

聞く力（理解の能力）（1-1~3, 2-1~4）は7問中6問、都平均を上回ることができた。練習問題を多く取り入れた結果であるが、少し複雑な問題（2-3）になると平均を下回った。

#### 【今後の具体的方針】

読みとりの力（理解の能力）を伸ばす対策として、1年時の復習も毎回の授業のオーラルイントロダクション等に入れていく必要性を感じた。

聞く力（理解の能力）、引き続きできるだけ多くの英語を毎回の授業で聞く機会を作るほか、文が長めの複雑な問題にも取り組み、リスニング力も高めていきたい。

表現の能力を高める対策として、引き続き英問英答を毎回取り入れるほか、話したり、使うことができるようになった表現の英作文を取り入れていく。